

## 指定管理者評価シート

## 一 管理運営の状況

1 施設名	仙台市市民センター（60館）	
2 指定管理者	公益財団法人 仙台ひと・まち交流財団	
3 指定期間	平成30年4月1日～令和5年3月31日（5か年）	
4 施設の利用状況	《利用者数》 1,666,928人（前年度比 63.1%）	《貸室利用件数》 111,517件（前年度比 74.2%）
	令和元年度 2,640,142人 平成30年度 2,950,236人 平成29年度 3,008,485人	令和元年度 150,246件 平成30年度 161,008件 平成29年度 162,242件
5 収支の状況	《事業》 ・施設の運営管理（施設の使用許可、使用料徴収含む） ・生涯学習事業	
	《費用》 ・指定管理者に支払った費用 1,995,864千円（1,926,785千円） 施設管理分 1,405,554千円（1,365,915千円） 生涯学習事業分 590,310千円（560,870千円） ・その他市が負担した費用 30,143千円（7,937千円） 施設管理分 26,151千円（5,430千円） 生涯学習事業分 3,992千円（2,507千円） 《収入》 ・使用料収入 125,525千円（151,018千円） ・その他収入 6,049千円（7,784千円） ( )は前年度決算額	
6 利用者の声	《実施状況》 ・令和2年10月1日～10月31日の期間、市民センター利用者に窓口サービスアンケートを実施。 ・近隣地域団体・学校・関係機関や利用団体等の出席による事業運営懇話会を各市民センターで実施。	

## 二 管理運営に係る評価

(モニタリングシートの結果によって評価)

評価分野	所見	評価
I 総則	市民センターが担うべき役割を職員自ら十分に理解している。また、事業運営懇話会を各市民センターで開催して地域ニーズの把握に努めるとともに、アンケートや各市民センターに設置した「ご意見・ご要望」箱に寄せられる利用者意見も踏まえながら、PDCAサイクルによる事業の改善に努め、市民センターの目指す「人づくり」「地域づくり」に取り組んだ。	30/30(60館)
II 施設の運営管理体制	協定書、仕様書、その他関係法令を遵守しており、適切に施設が運営されている。 緊急時・災害時の体制については、避難所運営マニュアル研修会や救急救命講習会に参加するなど、利用者の安全確保に取り組んでおり、福島県沖地震等の災害発生時には所管課と連携し、適切な対応を行った。 また、新型コロナウイルス感染症対策として、仙台市のガイドラインに基づき、利用者への注意喚起や、施設内の消毒・換気の徹底等、必要な対応を行った。	30/30(60館)
III 施設・設備の維持管理	日常的な施設の点検による不良箇所の早期発見、早期修繕に努めるなど、建物や設備の適切な維持管理を行った。	24/24(53館) 22/22(2館) 18/18(1館) 14/14(3館) 12/12(1館)
IV サービスの質の向上	指定管理者が実施する内部研修のほか、生涯学習支援センターや宮城県等が主催する外部研修の受講を通して、職員の意識向上やスキルアップに取り組んだ。 また、窓口サービスアンケートや事業運営懇話会、「お茶っこサロン」等の開催を通じ、市民ニーズの把握及び地域との顔の見える関係を構築し、サービスの向上に取り組んだ。 施設利用者の事故やケガの対応も適切に行われている。	28/28(60館)

<p>V 施設固有の基準</p>	<p>施設使用許可及び施設使用料徴収については、条例等の規定に基づき業務は適切に行われた。生涯学習事業については、新型コロナウイルス感染症の影響により、一部事業の中止や内容変更等を余儀なくされたものの、地域の学習ニーズや課題を把握し講座等を企画・実施するとともに、市民のライフステージに応じた学習機会の提供や誰もが参加しやすい環境づくりに取り組んだ。また、市民による主体的で多様な活動が地域で展開されるよう、サークル活動・市民活動の支援を行うとともに、地域住民や団体同士をつなぐコーディネートにも意欲的に取り組んだ。</p>	<p>17/17(53館) 10/10(3館) 7/7(4館)</p>
------------------	--	---

三 評価総括

<p>《指定管理者（公益財団法人 仙台ひと・まち交流財団）による自己評価》</p>	
<p>●施設管理</p> <p>市民センターの利用状況は、利用件数が111,517件、利用人数が1,666,928人であった。大規模修繕工事や新型コロナウイルス感染症の影響による臨時休館及び利用自粛等の影響により、利用件数及び人数ともに前年度より減少しているが、大きな事故もなく、新型コロナウイルス感染拡大防止対策を徹底しながら、安心・安全な施設利用の提供ができた」と評価している。</p> <p>市民センターの運営について、窓口サービスアンケートでは、全ての項目において「良い」「まあ良い」の合計が99%以上の評価を得た。アンケートや懇話会等で利用者の意見の把握に努め、苦情等については、迅速な対応とともに全館で情報共有を行い、業務改善に生かした。また、市関係部局とも緊密に報告・連絡を行っており、施設運営は適切に進められた」と評価している。</p> <p>●生涯学習事業</p> <p>生涯学習事業については、「仙台市市民センター事業要求水準書」の基本的事項を踏まえ、参加者が地域において主体的に活動し、学習成果を発揮できるようになることを意識し、取り組んだ。新型コロナウイルス感染症の影響により市民の活動も制限される状況の中、感染防止対策を徹底的な工夫を凝らし、市民の学びの支援に努めた。また、感染防止対策を図りつつ、新たな取組として全館で一斉に実施したクイズラリーは、各館で作成した紹介パネルにより、地域の魅力や市民センター事業について楽しみながら市民に知っていただく機会となった。新型コロナ対応により中止を余儀なくされた事業も3割弱あったが、生涯学習事業はコロナ禍においても延期・変更した事業も含めて7割以上は実施でき、可能な限り取り組んだ」と評価している。</p> <p>●その他</p> <p>新型コロナウイルス感染症対応や頻発している地震による施設の被害対応についても市所管課と密に連絡・調整を行いながら取り組み、適切に対応できている」と評価している。</p>	

<p>《施設設置者（仙台市）による評価》</p>	<p>総合評価</p>
<p>窓口サービスアンケートの結果が示すように施設利用者の評価は良好である。施設の維持管理については、各市民センターにおいて施設の状況に応じた管理や安全対策がなされていることに加え、指定管理者全体で年間約250件の修繕を実施する等、施設の利用に支障のないよう日々確実に業務を行っている。また、福島県沖地震や、その後頻発した地震の際には、所管課と連携し適切な対応を行ったほか、災害時の指定避難所、補助避難所としての役割を担うため、日頃より市の関係課等とも連携し、各種研修会等への参加等により施設管理者としての知識を深め、防災に対する意識向上の取組みを進めていることも評価できる。</p> <p>生涯学習事業に関しては、新型コロナウイルス感染症の影響により、中止を余儀なくされた事業もあったことから、要求水準書で定める講座等の企画数及び実施回数の「年間10事業、45回以上」を満たすことができなかった館もあったが、全館平均では「年間9.5事業、37回」と、約2か月の利用自粛期間もあった中で、各館における感染対策の徹底と創意工夫により、最大限の事業が実施された。また、毎年開催している「市民センターフォーラム」に代えて、新たに「地域まるわかり！クイズラリーにチャレンジしよう」を企画、実施し、コロナ禍にあっても、市民センターが地域の学びの交流の拠点としての役割を果たし、市民にとって、地域を知り、市民センターを身近に感じてもらうためのきっかけづくりとしたことは評価できる。また、事業運営懇話会や独自の取り組みである「お茶っこサロン」で地域情報やニーズの把握に努めるとともに、活動支援業務については、ボランティアやサークル活動等の支援を行い、地域の人や団体をつなぐコーディネーターとしての役割を果たしたことも評価できる。</p>	<p>S</p>

四 その他特記事項

（上記評価項目の他に、指定管理者の優れた取組み等、特に記載すべき事項があれば記載する）

<p>特記事項</p>
-------------

◎ 評価担当課（施設所管課）：教育局生涯学習支援センター、市民局地域政策課、各区中央市民センター